様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
商	商	夜・通信	１０		４	１４	１３	
	経営	夜・通信			４	１４	１３	
経済	経済	夜・通信			４	１４	１３	
言語コミュニケーション	英語コミュニケーション	夜・通信			４	１４	１３	
国際関係	国際関係	夜・通信			４	１４	１３	
	国際メディア	夜・通信			４	１４	１３	
人間社会	福祉心理	夜・通信			４	１４	１３	
	人間スポーツ	夜・通信			４	１４	１３	
	スポーツ科	夜・通信			４	１４	１３	
医療健康	理学療法	夜・通信			４	１４	１３	
経済	経済 English Track Program	夜・通信	１０		４	１４	１３	
国際関係	国際関係 English Track Program	夜・通信			４	１４	１３	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/pdf/2024jitsumu_keiken_kamoku.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/pdf/meibo_2024.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	他法人役員	2023.4.1 ～ 2025.3.31	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	他法人役員	2023.4.1 ～ 2025.3.31	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	他法人役員	2023.4.1 ～ 2025.3.31	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	他法人役員	2023.4.1 ～ 2025.3.31	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

- 授業計画書（シラバス）記載事項
  単位数、ナンバリング、授業内容、到達目標、関連科目や履修上望むこと、学位授与と科目との関連、単位制における学修時間、教科書、参考文献、授業方法（グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、PBL（課題解決型学習）、反転授業、実習、フィールドワーク）、Moodle 活用（小テスト、課題、フォーラム、フィードバック、調査、投票、その他、詳細）、授業計画、準備学修（事前・事後）、成績評価基準（平常点、試験、レポート、その他）、試験・課題等フィードバック方法、授業に関する質問への対応、授業計画、準備学修（事前・事後）、成績評価基準

時期	内容
12 月上旬～12 月中旬	事務局担当者より教員に担当科目の通知及びシラバス作成依頼
12 月中旬～1 月上旬	担当教員によるシラバス作成
～1 月末日	事務局担当者による記載内容の確認～修正
2 月上旬～3 月中旬	学長、学部長、関係機構長による記載内容の確認
3 月中旬～	Web にてシラバス公開

- 授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期

授業計画書の公表方法	https://poti.tiu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

- シラバスで、授業での到達目標と成績評価基準（平常点・試験・レポート・その他）を明示している。また、各基準については曖昧さを排除するために、詳細欄を設け、具体的に評価の根拠を示している。
- なお、1 年次生の一部履修科目(必修)は、ガイドブック（履修編）に明示したルーブリックを基に評価をしている。
- これらを基に厳格かつ適正に単位を授与している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
本学では全学的に統一した評価基準として GPA 制を導入しており、2016 年度からは、さらに、国際標準化と厳格適用を方針として、下記の評価基準とした。

・評価基準
各授業科目の成績は 100 点を満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とし単位の認定は行っていない。成績は、下表「成績評価・評価点及び得点」の中の「成績評価」として成績表に表示、発表している。なお、表の「得点(総合点)」は、試験結果をそのまま下記の表にあてはめるわけではなく、平常点、定期試験、その他(例えば、授業での報告、課題の提出状況と内容など)をシラバスに明示の通り総合したものであり、それにより成績評価が行われている。

・成績評価・評価点及び得点

成績評価	評価点（ＧＰ）	得点（総合点）
A	4.0	96-100
A-	3.7	92-95
B+	3.3	88-91
B	3.0	84-87
B-	2.7	80-83
C+	2.3	76-79
C	2.0	72-75
C-	1.7	68-71
D+	1.3	64-67
D	1.0	60-63
F	0.0	0-59

・GPA の求め方（計算方法）
各評価に対応するグレードポイント(評価点=GP：Grade Point)は「成績評価・評価点及び得点」の示すとおり。GPA 値は履修科目のグレードポイントに科目ごとの単位数を乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められる(単位数による加重平均)。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/gpa.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
学位授与基準及び学位授与手続きについては、ディプロマ・ポリシー、及び卒業要件の形で学生ガイドブック【履修編】に明示され、また年度初めのガイダンスで説明を行っている。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	東京国際大学
設置者名	学校法人東京国際大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data/index.html
財産目録	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data/index.html
事業報告書	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/business_report.html
監事による監査報告（書）	https://www.tiu.ac.jp/about/manage/financial_data/index.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：　　）
公表方法：	

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　商学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）
（概要） 商学部は、多様な国内・国際ビジネスの仕組みを理解し、ビジネス上の諸課題に実践的に対応できる能力を備えた人材を養成します。 商学科はビジネスにおいて必要とされる多様な専門知識を持ち、その応用能力を備えた人材を養成します。 経営学科は、経営に関する専門知識と実践力を持ち、それらを実社会で応用できる人材を養成します。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）
（概要） 商学部は、全学ディプロマ・ポリシーで示す要件と学則の定める卒業要件を満たし、次の資質や能力を修得した者に学士の学位を授与します。 〔商学科〕 1. ビジネスマインドを有した社会人として活躍するための教養を身に付けている。 2. 市場環境変化への適応において必要とされる ICT を含む多様な専門知識を身に付けている。 3. 主に市場環境変化に関するデータを収集したうえで、それをもとに論理的に思考し、市場問題の解決を実践的に図ることができる。 4. 国内外のビジネスシーンにおいて、さまざまな文化や価値観等の多様性を受け容れ、グローバルな視点から俯瞰的に考えることができるとともに、他者と協働して、互いにコミュニケーションをとることができる。 5. 市場を起点として、社会に関する関心と志を高くもち、社会に貢献する態度を有している。 6. ビジネスマインドを有した社会人としての責任感・倫理観を有し、勇気をもって、新しい可能性にチャレンジできる。 〔商学科（データサイエンスコース/グローバルデータサイエンスコース）〕 1. ビジネスマインドを有した社会人として活躍するための教養を身に付けている。 2. 市場環境変化への適応において必要とされる ICT とデータサイエンスを核とする多様な専門知識を身に付けている。グローバルデータサイエンスコースにおいては、さらに、英語での実践的なビジネスコミュニケーションに関する知識と運用能力を身に付けている。 3. 主に市場環境変化に関する（ビッグ）データを収集したうえで、それをもとに論理的に思考し、市場問題の解決を ICT を駆使して実践的に図ることができる。 4. 国内外のビジネスシーンにおいて、さまざまな文化や価値観等の多様性を受け容れ、グローバルな視点から俯瞰的に考えることができるとともに、他者と協働して、互いにコミュニケーションをとり、実践的なグループプロジェクトを遂行することができる。 5. 市場を起点として、社会に関する関心と志を高くもち、社会に貢献する態度を有している。 6. ビジネスマインドを有した社会人としての責任感・倫理観を有し、勇気をもって、新しい可能性にチャレンジできる。 〔経営学科〕 1. ビジネスマインドを有した社会人として活躍するための教養を身に付けている。 2. 経営管理に必要とされる ICT を含む多様な専門知識を身に付けている。 3. 主に経営管理に関するデータを収集したうえで、それをもとに論理的に思考し、ビジネス上の問題の解決を実践的に図ることができる。 4. 国内外のビジネスシーンにおいて、さまざまな文化や価値観等の多様性を受け容れ、グローバルな視点から俯瞰的に考えることができるとともに、他者と協働して、互いにコミュニケーションをとることができる。 5. 経営を起点として、社会に対する関心と志を高くもち、社会に貢献する態度を有している。 6. ビジネスマインドを有した社会人としての責任感・倫理観を有し、勇気をもって、新しい可能性にチャレンジできる。 〔経営学科（データサイエンスコース/グローバルデータサイエンスコース）〕 1. ビジネスマインドを有した社会人として活躍するための教養を身に付けている。 2. 経営管理に必要とされる ICT とデータサイエンスを核とする多様な専門知識を身に付けている。グローバルデ

ータサイエンスコースにおいては、さらに、英語での実践的なビジネスコミュニケーションに関する知識と運用能力を身に付けている。
3.主に経営管理に関する（ビッグ）データを収集したうえで、それをもとに論理的に思考し、ビジネス上の問題の解決を ICT を駆使して実践的に図ることができる。
4.国内外のビジネスシーンにおいて、さまざまな文化や価値観等の多様性を受け容れ、グローバルな視点から俯瞰的に考えることができるとともに、他者と協働して、互いにコミュニケーションをとり、実践的なグループプロジェクトを遂行することができる。
5.経営を起点として、社会に対する関心と志を高くもち、社会に貢献する態度を有している。
6.ビジネスマインドを有した社会人としての責任感・倫理観を有し、勇気をもって、新しい可能性にチャレンジできる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）

（概要）
商学部は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。

1.初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。
2.専門課程で学修する多くの科目の中から、学生の関心・進路に応じたテーマを中心に学べる「複数の履修コース」を提示します。
3.基礎演習（2 年次）・専門演習（3 年次および 4 年次）において、商学および関連分野の多様な学修・研究を可能にします。
4.地域と連携した講義や実践的な学修・活動を通じて、社会とつながる学修を進めます。
5.多くの専門科目および演習・実践的な学修において、社会の現場における課題に果敢に取り組む実践力を磨く学修を行います。
上記 CP に加え、学科ごとに次の方針を定めます。

〔商学科〕
1.専門課程への導入のために、商学科の学科内専門共通科目を選択必修科目として定めます。
2.マーケティング、国際ビジネス、地域・公共、データサイエンスの専門分野を中核とし、教養コア科目、言語スキル科目、関連する専門科目を包摂した複数の履修コースを提示して、体系的履修を可能とします。

〔経営学科〕
1.専門課程への導入のために、経営学科の学科内専門共通科目を選択必修科目として定めます。
2.経営、会計・ファイナンス、情報、データサイエンスの専門分野を中核とし、教養コア科目、言語スキル科目、関連する専門科目を包摂した複数の履修コースを提示して、体系的履修を可能とします。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）

（概要）
〔マーケティング学科*〕
商学部マーケティング学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・市場（Market）の動向に関心をもち、ビジネス現場での実践力を修得する意欲を有する。
*2025 年 4 月より、「商学科」は「マーケティング学科」に名称変更予定

〔経営学科〕
商学部経営学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・企業の動向に関心をもち、経営能力、組織管理能力を修得する意欲を有する。

〔データサイエンスコース／グローバルデータサイエンスコース〕
データサイエンスコース／グローバルデータサイエンスコースでは、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・社会・ビジネスの動向に関心をもち、ICT とデータサイエンスに関する知識を応用する実践力を修得する意欲を有する。

学部等名　経済学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）

（概要）
経済学部は、国際社会に生きる経済人として、世界を舞台にした経済活動に様々な分野からアプローチできる確かな理論と実践力を備えた人材を養成します。
経済学科は、経済学を基軸とした知識をもとに、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材を養成する。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）

（概要）
経済学部経済学科は、以下の能力を修得し、学則に定める所定の卒業要件を満たした者に学士（経済学）の学位を授与します。

〔経済学科　現代経済専攻〕
1.経済社会のさまざまな現場において活躍するために幅広い分野の教養を身に付けている。
2.経済学およびその隣接学問分野に関する専門知識を身に付け、経済活動に関する制度や市場のメカニズムを理解している。
3.経済学およびその隣接学問分野に関する知識をもとに収集した情報・データを利用して、論理的に思考し、 問題の解決を図ることができる。
4.内外における経済社会問題について、文化、価値観等の多様性に配慮して、グローバルな視点からバランスの取れた考え方を示すとともに、他者と協働して、互いにコミュニケーションをとることができる。
5.社会に対する関心と志を高くもち、身に付けた経済学的思考力を活かして社会に貢献する態度を有している。
6.社会人としての責任感・倫理観を有し、勇気をもって、経済社会分野を中心に新しい可能性にチャレンジができる。

〔経済学科　ビジネスエコノミクス専攻〕
1.経済社会のさまざまな現場において活躍するために幅広い分野の教養を身に付けている。
2.経済学に関する専門知識を身に付け、戦略的な観点から経済活動に関する制度や市場のメカニズムを理解することができる。
3.経済学に関する知識をもとに収集した情報・データを利用して、最適な企画を立案し、問題解決につなげることができる。
4.内外における経済社会問題について、文化、価値観等の多様性に配慮して、グローバルな視点からバランスの取れた考え方を示すとともに、語学力を高めることで、他者と協働して、互いにコミュニケーションをとることができる。
5.社会に対する関心と志を高くもち、身に付けた経済学的思考力を活かして社会に貢献する態度を有している。
6.社会人としての責任感・倫理観を有し、勇気をもって、経済社会分野を中心に新しい可能性にチャレンジができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）

（概要）
経済学部経済学科では、全学 CP を共通基盤とし、その上に、経済社会のさまざまな現場において、論理的に考え、問題解決を図る実践力を備えた人材の養成を目指し、次の方針を定めます。

1.初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。
2.専門課程では、「理論・戦略」、「ファイナンス」、「国際」、「地域・公共」、「スポーツ」などの分野ごとに科目を編成するとともに、学生の関心・進路に応じた多面的な履修ができるよう複数の履修コースを提示します。

3.現代経済専攻では、
①経済学の基本的な考え方を基にして、経済について多面的に理解するとともに、広範な知識とスキルを身につけることを目指した科目を配置します。
②自らの関心にもとづいて、様々な分野から自由に、かつ、段階的に履修することができる＜経済総合コース＞、地域・公共分野、スポーツ分野からそれぞれ重点的に学ぶ＜地域デザインコース＞および＜スポーツ経済コース＞を提示します。

4.ビジネスエコノミクス専攻では、
①ビジネス社会で必要な経済学的思考や戦略的思考を身に付け、実践の場においてそれらを活用できることを目指した科目を配置します。
②金融に関する先端的な知識と問題解決能力を身につける＜ファイナンスコース＞、社会の様々な場面で、目標達成のために必要な戦略や政策を立案できる能力を鍛える＜ストラテジストコース＞を提示します。

入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）
（概要） 〔経済学科現代経済専攻〕 経済学部経済学科現代経済専攻では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。 ・経済社会について多面的な理解をするための知性を身につけようとする意欲を有する。 ・経済社会のさまざまな現場において活躍することへの大志を有する。 ・内外における経済社会問題への関心と、さまざまな価値観についてのバランスのとれた見方を有する。 〔経済学科ビジネスエコノミクス専攻〕 経済学部経済学科ビジネスエコノミクス専攻では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。 ・経済社会について多面的な理解をするための知性を身につけようとする意欲を有する。 ・ビジネスの戦略や企画の立案の現場において活躍することへの大志を有する。 ・内外における経済社会問題への関心と、さまざまな価値観についてのバランスのとれた見方を有する。

学部等名　言語コミュニケーション学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）
（概要） 言語コミュニケーション学部は、国際コミュニケーションの知識と技術を磨き、国際社会で活躍できる応用力と専門性を備えた人材を養成します。 英語コミュニケーション学科は、英語力を基軸に、国際コミュニケーションの知識と実践を統合的に探求し、国際社会に貢献できる人材を養成します。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）
（概要） 言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科は、次の能力を修得し、学則に定める所定の卒業要件を満たした者に学士（言語コミュニケーション学）の学位を授与します。 〔英語コミュニケーション学科〕 1. 社会人として活躍するために必要な幅広い知識と思考力、判断力、表現力を身に付けている。 2-a. 自立した言語（英語）使用者として、身近な話題について主要な点を理解し、筋の通った簡単な文章を作ることができる。 2-b. 「異文化コミュニケーション」「英語ビジネスコミュニケーション」「英語教員養成」のいずれかの領域について体系立った専門知識と、それを活かすための分析力が身に付いている。 3. デジタル環境を活用しつつ、社会の諸課題を調査、分析し、解決する方策を論理的に日本語および平易な英語で提案できる。 4. 他者の異なる価値観を「個性」として受け容れ、人間関係を構築、保持、修正するために日本語および平易な英語でやり取りする力を有している。 5. 日本および国際社会の諸課題を他人事ではなく自分の問題として捉え、解決に向けて何をすべきかを考え、行動する習慣が身に付いている。 6-a. 公共の利益のために、他者と目標を共有したうえで、確固たる倫理観にもとづき、自ら率先して行動できる。 6-b. 海外留学などの経験を通じて、新しい可能性にチャレンジし、諸問題を解決する行動力が身に付いている。 〔英語コミュニケーション学科グローバルビジネスコース〕 1. 国際社会で活躍するために必要な幅広い知識と思考力、判断力、表現力を身に付けている。 2-a. 自立した言語（英語）使用者として、抽象的な話題についても、複雑な文章の主要な内容を理解し、かつ、幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。 2-b. 「英語ビジネスコミュニケーション」の領域について体系立った専門知識と、それを活かすための分析力、提案力、協働力が身に付いている。 3. デジタル環境を活用しつつ、国際社会におけるビジネスの諸課題を調査、分析し、解決する方策を論理的に日本語および英語で提案できる。 4. 他者の異なる価値観を「個性」として受け容れ、日本語および英語で人間関係の構築、保持、修正するために日本語および英語でやり取りする力を有している。 5. 日本および国際社会の諸課題を他人事ではなく自分の問題として捉え、解決に向けて何をすべきかを考え、行動する習慣が身に付いている。

6-a.公共の利益のために、他者と目標を共有したうえで、確固たる倫理観にもとづき、自ら率先して行動できる。
6-b.海外留学や海外インターンシップなどの経験を通じて、新しい可能性にチャレンジし、諸問題を解決する行動力が身に付いている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）

（概要）
言語コミュニケーション学部・英語コミュニケーション学科は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。

1.初年次に大学での学修の基礎を身に付けるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。
2.基礎教育分野では、国際人として必要な知識・理解を多角的な学修で磨き、基礎的な教養と幅広い知識を身に付けるための多様な科目を設置します。
3.「言語スキル科目」では、ネイティブ教員による少人数クラスの必修英語科目を基礎とし、留学やキャンパス内での国際交流などの機会を通して、より高いレベルの「使える英語力」が身に付くような環境を提供します。また、英語以外の外国語科目を設置し、複数の外国語の修得を目指すことも可能にします。
4.専門教育分野では、「異文化コミュニケーション」「英語ビジネスコミュニケーション」「英語教員養成」のいずれかの領域について体系的に学ぶカリキュラムを設定します。
5.学修方法の特徴として、多くの授業および演習・実践的な学修において、能動的な学修方法を積極的に取り入れ、社会の現場における課題に果敢に取り組む実践力のある人材を育てるための科目を配置します。
6.グローバルビジネスコースでは、留学や海外インターンシップ、プロジェクト型の学修方法を通して、ビジネスの場において即戦力となる英語コミュニケーション能力を磨くための科目を設置します。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）

（概要）
〔英語コミュニケーション学科〕
言語コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・学部が重視する英語教育に取り組むための基礎的な英語力を有する。
・グローバル社会に興味を持ち、多様な社会の理解に努める意欲と行動力を有する。
・「異文化コミュニケーション」「英語ビジネスコミュニケーション」「英語教員養成」のいずれかの分野に興味があり、学ぶ意欲を有する。

〔グローバルビジネスコース〕
グローバルビジネスコースでは、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・学部が重視する英語教育に取り組むための高度な英語力を有する。
・グローバル社会に興味を持ち、多様な社会の理解に努める意欲と行動力を有する。
・国際社会におけるビジネスとコミュニケーションの分野に興味と意欲を有する。

学部等名　国際関係学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）

（概要）
国際関係学部は、多様な国際社会の本質を理解し、理論と実践を統合し、世界で活躍する人材を養成します。
国際関係学科は、国際問題を多面的思考で捉え、地球市民として現実に立ち向かう知恵と行動力を備えた人材を養成します。
国際メディア学科は、国際的な視野で、的確な情報の受発信を通して真の共生社会実現をめざす人材を養成します。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）

（概要）
国際関係学部は、以下の能力を修得し、学則の定める卒業要件を満たした者に学士の学位を授与します。〔国際関係学科〕：学士（国際関係学）　〔国際メディア学科〕：学士（国際メディア学）

〔国際関係学科〕
1.多角的な視野からの幅広い知識と教養を身に付けている。
2.国際関係分野の専門知識とその応用に必要なコミュニケーション力を身に付けている。
3.国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる。
4.国際社会における問題の理解と解決に必要な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考にもとづいて問題の解決に取り組むことができる。
5.市民として社会に対して関心をもち、グローバルな視点から国際関係の幅広い知見や経験を活かして社会に貢献することができる。

〔国際メディア学科〕
1.多角的な視野からの幅広い知識と教養を身に付けている。
2.国際社会におけるメディアの役割を理解し、情報の受発信についての技術力と実践力およびコミュニケーション力を身に付けている。
3.国際社会の多様な価値観や文化を理解し、自立かつ協働して諸問題に取り組むことができる。
4.メディアから発信される多様な情報やデータを収集・分析し、論理的で多角的かつ批判的な思考にもとづいて問題の解決に取り組むことができる。
5.市民として社会に対して関心をもち、グローバルな視点からメディアやコミュニケーションに関する知見や技能を活かして社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）

（概要）
国際関係学部は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。

1.初年次に大学での学修の基礎を身につけるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的に学ぶカリキュラムを設定します。
2.基礎教育分野に、幅広い知識と教養を修得する科目を設置します。
3.両学科に共通して設置する専門分野「ツーリズム」と、国際関係学科、国際メディア学科それぞれの専門科目群の学修を活かし、多様な専門性をもつ「観光人材」を育成します。
4.学科間共通専門分野に「特別教育プログラム」を設置し、主に「現場学習プログラム」により、学内外をフィールドに理論と現場を結びつけて学びます。
上記 CP に加え、学科ごとに次の方針を定めます。

〔国際関係学科〕
「戦争と平和」「国際協力」「現代日本」「国際地域研究」「ツーリズム」の各分野に専門科目を設置し、国際社会および現代日本社会について多面的に学修します。

〔国際メディア学科〕
社会におけるメディアの役割を的確に理解し、国際的な視野から、発信される情報の本質ならびに文化的・ 思想的背景を読み取るとともに、自ら世界に向けて情報を発信する能力を養うための学修を行う「メディア」 「ツーリズム」「コミュニケーション」の専門科目群を設置します。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）

（概要）
〔国際関係学科〕
国際関係学部国際関係学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・国際社会の出来事に関心をもち、文化や価値観の多様性を理解し、問題解決のための実践的能力を身につけようとする意欲を有する。

〔国際メディア学科〕
国際関係学部国際メディア学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・メディアの意義や役割を理解し、情報を批判的・多角的に評価・判断し、みずから情報を発信する能力を身につけようとする意欲を有する。

学部等名　人間社会学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）
（概要） 人間社会学部は、社会、文化、福祉、心理、スポーツのそれぞれの視点から人間と社会のかかわりを探求し、ひとの幸せのために、優しさと勇気を持って社会に貢献できる教養ある人材を養成します。 福祉心理学科は、現代社会の諸問題を福祉の視点、心理の視点から捉え、専門性と総合的技術を備えた人材を養成します。 人間スポーツ学科は、スポーツの知識及び技能を修得し、社会貢献に欠かせない行動力や指導力を心身の両面から備えた人材を育成します。 スポーツ科学科は、人間諸科学の総合的な視点から、幅広く深い国際的な教養と豊かな人間性を兼ね備えたスポーツ競技者及びその指導者を目指す人材を養成します。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）
（概要） 人間社会学部は、以下の能力を修得し、学則の定める卒業要件を満たした者に学士の学位を授与します。〔福祉心理学科〕：学士（福祉心理学）　〔人間スポーツ学科〕：学士（人間スポーツ学）　〔スポーツ科学科〕：学士（スポーツ科学） 〔福祉心理学科〕 1. 社会福祉学と心理学の双方の学びを通して、共生社会のための様々な現場、心理学を活用できる様々な現場で活躍するために幅広い教養を身に付けている。 2. 私たちが生活する社会のなかでの福祉の在り方（知識、技術、制度）を把握・理解しているとともに、心理学を通じて心のしくみを理解し、その双方の知識と技術を生かして、他者や社会のための専門的な実践ができる。 3. 共生社会の在り方や社会制度の知識を十分に理解して、福祉の在り方を考えることができる。データの収集と分析において心理学の方法論を十分取り入れ、心や社会の仕組みを理解して問題解決を図ることができる。 4. 福祉に関する共生社会の在り方や社会制度、支援技術を理解して、さらに心理学の知識や技術、実践的なスキルを生かし、社会を俯瞰的、多角的に見ることができ、他者と協働してコミュニケーションをとることができる。 5. 福祉制度の理念と知識、そして支援技術を十分に理解・把握している。そして心理学の専門的な知識と技術を身に付けて、社会に貢献する態度を有している。 6. 社会人としての責任感・倫理観を遵守しつつ、 福祉と心理学の知識や技術を新たに社会の支援のために活用するチャレンジができる。 〔人間スポーツ学科〕 1. スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。 2. スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。 3. スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。 4. スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実際的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身に付けている。 5. 人間の実生活の中で健康およびスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力をもっている。 6. 健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している。 〔スポーツ科学科〕 1. 身体・心理・栄養・技術・戦術に関する幅広い教養を身に付けている。 2. スポーツおよび健康を自然現象の原理原則を実生活に応用する立場から科学的に理解している。 3. スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、スポーツ行動や健康行動を科学的に理解し、問題解決を図ることができる。 4. スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを専門的かつ合理的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身に付けている。 5. 高度なスポーツ技能や多様なレベルに対応できる指導方法を身に付け、様々な専門家と協働してアスリートの支援ができる。 6. スポーツのパフォーマンスの向上を目指しながら、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとして求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有し、グローバルな視点から活躍できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）

（概要）
人間社会学部では全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。

1. 初年次に大学での学修の基礎を身に付けるための必修科目を配置し、基礎から専門へ体系的、段階的に学ぶカリキュラムを設定します。
2. 専門教育分野では、３つの学科にまたがって共通に学べる学科間共通科目と学科独自の専門科目とを設置します。
3. 実技や実験、実習、演習を通じて、社会の現場における課題に取り組む力や他者と協働する力を育成します。
4. 資格の取得を希望する者には、学科ごとに必要な所定の科目を履修できるカリキュラムを設定します。
5. 社会生活に必要な責任感及び倫理観の醸成や社会に貢献する態度の涵養のため、様々な現場実習や職場体験等の機会を提供する体験型プログラムを設置します。
上記の CP に加え、学科ごとに次の方針を定めます。

〔福祉心理学科〕
1. 福祉と心理のどちらも専門的な知識・技能の修得ができるよう、福祉系専門科目と心理系専門科目を設置します。
2. 共生社会または、心理学を活用できる様々な現場で活躍できるよう、専門的、実践的な科目を配置します。

〔人間スポーツ学科〕
1. 健康の維持・増進への社会的ニーズに応えられるスポーツ・運動指導者となるために必要な専門的知識やそれらを活用した指導方法を修得できるようにスポーツ理論専門科目とスポーツ実技専門科目を設置します。
2. 教職、健康運動指導士などの資格取得を目指す者のために、必要な科目を履修できるカリキュラムを設定します。

〔スポーツ科学科〕
1. スポーツパフォーマンスの向上を目指し、アスリートやスポーツ・運動のエキスパートとなるために必要な専門的知識や多様なレベルに対応できる指導方法を修得できるようにスポーツ理論専門科目とスポーツ実技専門科目を設置します。
2. 教職、トレーニング指導者などの資格取得を目指す者のために、必要な科目を履修できるカリキュラムを設定します。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）

（概要）
〔福祉心理学科〕
人間社会学部福祉心理学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・こころのしくみに関心をもち、また共生社会の実現や福祉のまちづくりに関心をもち、実践的に活かそうという意欲を有する。

〔人間スポーツ学科〕
人間社会学部人間スポーツ学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・スポーツを通じて心身の仕組みなどについて学んだことを教育や社会活動に活かすことに関心・意欲を有する。

〔スポーツ科学科〕
人間社会学部スポーツ科学科では、全学アドミッション・ポリシーを共通基盤とし、特に次の素養をもつ学生を求めます。
・スポーツを通じて人間諸科学の視点から人間や社会を理解し、科学的なスポーツ実践に関心・意欲を有する。

学部等名　医療健康学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/manage/purpose_undergraduate.html）

（概要）
医療健康学部は、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成します。
「理学療法学科」は、現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成します。

卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/diploma/）
（概要） 医療健康学部理学療法学科は、以下の能力を修得し、学則の定める卒業要件を満たした者に学士（理学療法学）の学位を授与します。 〔理学療法学科〕 1.良好な人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力を有し、人々に対して思いやりをもって接することができる。 2.理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を備えている。 3.理学療法を必要としている人々を生活者の視点で全人的に理解することができる。 4.理学療法に関する幅広い知識・技術を有しており、各専門職と連携しながら科学的根拠に基づく理学療法を実践することができる。 5.理学療法関連の諸科学の発展や理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応し、生涯にわたり学び続けることができる。 6.臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法のいずれかの分野に関して、より専門性の高い知識・技術を有し、各分野の理学療法に貢献することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/policy/curriculum/）
（概要） 医療健康学部は、全学 CP を共通基盤とし、その上に、次の方針を定めます。 1.基礎教育分野において、良好な人間関係構築に必要な基礎理論を修得した上で、少人数制の演習授業を通じて、人々に対して思いやりをもって接することができるようにする（理学療法学科 DP 1 に対応）。 2.基礎教育分野及び専門教育分野の講義科目で、医療倫理及び理学療法倫理を学び、臨床実習科目で倫理原則の遵守を実践することで、理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を身につけられるようにする（理学療法学科 DP2 に対応）。 3.臨床実習科目において、理学療法を必要としている人々を身体・心理・社会的立場・人格などあらゆる角度から理解できるようにする（理学療法学科 DP3 に対応）。 4.専門教育分野において、科学的根拠に基づく理学療法の実施に必要な知識・技能を修得できるようにする（理学療法学科 DP4 に対応）。 5.統計学や研究法に関する科目、少人数制の演習科目を通じて、専門職の生涯学習に必要な基本的な学修スキルおよび意欲・態度を身につけられるようにする（理学療法学科 DP5 に対応）。 6.理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応するために、近年ニーズが高まっている臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目を設ける（理学療法学科 DP6 に対応）。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.tiu.ac.jp/entrance_examination/adpolicy/）
（概要） 医療健康学部理学療法学科では、大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。 1.大学での学修および活動に積極的に取組む意欲と行動力を有する。 2.高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。 3.健康・医療に興味関心があり、他者への慈しみの心を持って社会に貢献する意欲を有する。 4.理学療法士を目指し、専門知識や技術を学ぶ意欲をもち、そのための努力をすることができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	8 人	－					8 人
商	－	21 人	2 人	0 人	0 人	0 人	23 人
経済	－	26 人	9 人	4 人	0 人	0 人	39 人
言語コミュニケーション	－	9 人	4 人	7 人	0 人	0 人	20 人
国際関係	－	22 人	10 人	3 人	0 人	0 人	35 人
人間社会	－	23 人	10 人	9 人	0 人	0 人	42 人
医療健康	－	6 人	9 人	5 人	0 人	0 人	20 人
教養（一般）	－	3 人	0 人	54 人	0 人	0 人	57 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	134 人	134 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://poti.tiu.ac.jp/kgResult/japanese/index.html

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

◆全学FD研修会： 1/24
◆商学部：5/17・6/14・9/20　◆経済学部：6/21・3/21
◆言語コミュニケーション学部：6/21・9/27・11/22・3/13
◆国際関係学部：9/6・3/14
◆人間社会学部：3/2
◆医療健康学部：7/19・12/20
◆Eトラック運営機構： 8/24
◆Global Teaching Institute（GTI）：6/14・10/18
◆Japanese Language Institute（JLI）： 2/21

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
商	260 人	205 人	78.8%	960 人	800 人	83.3%	若干名	0 人
経済	515 人	431 人	83.7%	1,940 人	2020 人	96.0%	若干名	2 人
言語コミュニケーション	210 人	273 人	130.0%	960 人	858 人	89.4%	若干名	1 人
国際関係	370 人	378 人	102.2%	1,480 人	1,521 人	102.8%	若干名	2 人
人間社会	500 人	429 人	85.8%	1,930 人	1,743 人	90.3%	若干名	1 人
医療健康学部	80 人	60 人	75.0%	320 人	249 人	77.8%	若干名	0 人
合計	1,935 人	1,776 人	91.8%	7,590 人	7,191 人	94.7%	若干名	6 人

（備考）
経済学部・国際関係学部は 2024 年秋入試を実施

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
商	139 人 （100%）	0 人 （0%）	136 人 （97.8%）	3 人 （2.2%）
経済	357 人 （100%）	6 人 （1.7%）	302 人 （84.6%）	49 人 （13.7%）
言語コミュニケーション	185 人 （100%）	1 人 （0.5%）	171 人 （92.4%）	13 人 （7.0%）
国際関係	230 人 （100%）	2 人 （0.9%）	210 人 （91.3%）	18 人 （7.8%）
人間社会	389 人 （100%）	5 人 （1.3%）	371 人 （95.4%）	13 人 （3.3%）
合計	1,300 人 （100%）	14 人 （1.1%）	1,190 人 （91.5%）	96 人 （7.4%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

教員、アパホテル株式会社、警察官、株式会社星野リゾート、消防官、飯能信用金庫、ヤマト運輸株式会社、ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社、ＡＮＡエアポートサービス株式会社、株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ、戸田中央メディカルケアグループ（ＴＭＧ）、ＩＭＳグループ（板橋中央総合病院グループ）、日本瓦斯株式会社（ニチガス）、株式会社ヤオコー、株式会社ＪＴＢ、株式会社エイチ・アイ・エス、株式会社ホテルオークラ東京、株式会社パレスホテル、大成建設株式会社、株式会社伊藤園、株式会社しまむら、羽田空港サービス株式会社、株式会社羽田エアポートエンタープライズ、株式会社テラスカイ、トランスコスモス株式会社、アイホン株式会社、株式会社大塚商会、三菱ふそうトラック・バス株式会社、アデコ株式会社、青山商事株式会社、上尾中央医科グループ、自衛官、全日本空輸株式会社、西日本旅客鉄道株式会社（ＪＲ西日本）、東急電鉄株式会社、京浜急行電鉄株式会社、大和ハウス工業株式会社、アイリスオーヤマ株式会社、株式会社マイナビ、本田技研工業株式会社、みずほ証券株式会社、アディダスジャパン株式会社、株式会社鷺宮製作所、鴻池運輸株式会社、文化シヤッター株式会社、北野建設株式会社、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社、株式会社武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫、城北信用金庫、日本郵便株式会社、株式会社ＤＴＳ、日本情報産業株式会社、株式会社ユナイテッドアローズ、スターバックスコーヒージャパン株式会社、ヘイズ・スペシャリスト・リクルートメント・ジャパン株式会社、金谷ホテル株式会社、藤田観光株式会社、株式会社森ビルホスピタリティコーポレーション、イケア・ジャパン株式会社

（備考）

医療健康学部は 2021 年度に設置し、完成年度を迎えていないため、卒業者がいない。

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

・毎回の授業テーマ及び授業内容の記述を体系的な視点から授業の位置付け・学修の狙い等が分かるよう配慮した記述とすべく、授業方法に、講義・演習他、アクティブ・ラーニング方式等をシラバスに明記するよう依頼し、実質性のない授業計画にならないよう具体例を提示したシラバス作成要領を準備している。

・シラバスには、授業（含実務経験のある教員等の実務経験を活かした実践的教育授業）の内容・方法、各回の授業計画、到達目標、成績評価の方法・基準、事前事後準備学修、試験・課題等のフィードバック方法に加え、教科書・参考文献・成績評価基準に対しての補足記載欄、特記事項・関連科目や履修上望むこと・授業に関する質問への対応についての記載項目を設けている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

・シラバスにおいて予め学生に示された成績評価基準（平常点・試験・レポート・その他）により厳格且つ適正に評価を行っている。各項目については曖昧さを排除するために、詳細欄を設け、補足的な説明を付すことにより成績評価基準をより明確に示している。

・1年次生の履修科目（必修）において、ルーブリックを基に評価をしている。

・学位授与基準及び学位授与手続きについては、ディプロマ・ポリシー、及び卒業要件の形で学生ガイドブック【履修編】に明示され、また年度初めのガイダンスで説明を行っている。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
商	商	124 単位	有・無	40 単位
	経営	124 単位	有・無	40 単位
経済	経済	124 単位	有・無	40 単位
言語コミュニケーション	英語コミュニケーション	124 単位	有・無	40 単位
国際関係	国際関係	124 単位	有・無	40 単位
	国際メディア	124 単位	有・無	40 単位
人間社会	福祉心理	124 単位	有・無	40 単位
	人間スポーツ	124 単位	有・無	40 単位
	スポーツ科	124 単位	有・無	40 単位
医療健康	理学療法	130 単位	有・無	40 単位

ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

<table>
<tr><th>入学年度
・時期</th><th>学部名</th><th>学科名</th><th>授業料
（年間）</th><th>入学金</th><th>その他</th><th>備考
（任意記載事項）</th></tr>
<tr><td rowspan="10">2024</td><td rowspan="2">商</td><td>商</td><td rowspan="5">850,000 円</td><td rowspan="10">250,000 円</td><td rowspan="2">310,000 円</td><td rowspan="9">施設費</td></tr>
<tr><td>経営</td></tr>
<tr><td>経済</td><td>経済</td><td rowspan="3">320,000 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">国際関係</td><td>国際関係</td></tr>
<tr><td>国際メディア</td></tr>
<tr><td>人間社会</td><td>福祉心理</td><td>310,000 円</td></tr>
<tr><td>言語コミュニケーション</td><td>英語コミュニケーション</td><td>900,000 円</td><td>320,000 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間社会</td><td>人間スポーツ</td><td rowspan="2">910,000 円</td><td rowspan="2">410,000 円</td></tr>
<tr><td>スポーツ科学科</td></tr>
<tr><td>医療健康</td><td>理学療法</td><td>910,000 円</td><td>650,000 円</td><td>施設費　410,000 円
実習費　240,000 円</td></tr>
<tr><td rowspan="10">2023
2022
2021</td><td rowspan="2">商</td><td>商</td><td rowspan="5">850,000 円</td><td rowspan="10">0 円</td><td rowspan="7">300,000 円</td><td rowspan="9">施設費</td></tr>
<tr><td>経営</td></tr>
<tr><td>経済</td><td>経済</td></tr>
<tr><td rowspan="2">国際関係</td><td>国際関係</td></tr>
<tr><td>国際メディア</td></tr>
<tr><td>人間社会</td><td>福祉心理</td></tr>
<tr><td>言語コミュニケーション</td><td>英語コミュニケーション</td><td>900,000 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">人間社会</td><td>人間スポーツ</td><td rowspan="2">910,000 円</td><td rowspan="2">400,000 円</td></tr>
<tr><td>スポーツ科学</td></tr>
<tr><td>医療健康</td><td>理学療法</td><td>910,000 円</td><td>640,000 円</td><td>施設費　400,000 円
実習費　240,000 円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2024
秋入学</td><td>経済</td><td>経済
English Track Program</td><td rowspan="2">500,000 円</td><td rowspan="4">250,000 円</td><td rowspan="2">160,000 円</td><td rowspan="8">施設費</td></tr>
<tr><td>国際関係</td><td>国際関係
English Track Program</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2024
春入学</td><td>経済</td><td>経済
English Track Program</td><td rowspan="2">1,000,000 円</td><td rowspan="2">320,000 円</td></tr>
<tr><td>国際関係</td><td>国際関係
English Track Program</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2023
秋入学</td><td>経済</td><td>経済
English Track Program</td><td rowspan="2">1,100,000 円</td><td rowspan="4">0 円</td><td rowspan="4">300,000 円</td></tr>
<tr><td>国際関係</td><td>国際関係
English Track Program</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2023
春入学</td><td>経済</td><td>経済
English Track Program</td><td rowspan="2">1,200,000 円</td></tr>
<tr><td>国際関係</td><td>国際関係
English Track Program</td></tr>
</table>

2022 秋入学 /春学期	経済	経済 English Track Program	1,100,000 円	0 円	300,000 円	施設費
2021 秋入学	国際関係	国際関係 English Track Program				

休学中の学費として、1 年間休学する場合、施設費の全額、半期休学する場合、施設費の半額を納入することとする。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） ○オフィスアワー制度 本学では「オフィスアワー制度」を全教員の責務として実施し、学修相談・修学支援などの充実を図っている。 ○シラバスの充実による支援 授業内容に関する学習指導を適切に実施するため、シラバスには「授業に関する質問への対応」を記した項目を設け、授業に関する質問への対応可能な時間や場所を掲載しており、専任および専任以外の教員にも相談することが可能であることを学生に周知している。 ○履修指導支援 年度当初に実施している、新入生を対象とした学部ごとのガイダンスでは、履修についての説明だけでなく、実際に時間割を作成させ、個別相談を行うことで履修についての不安を解消している。また、在校生のうち GPA が低調な学生、出席状況が思わしくない学生については、個別指導を行っている。
○語学学習・留学支援 語学学習の充実と留学を希望する学生のために、常駐する英語ネイティブの GTI(Global Teaching Institute)教員と英会話を学ぶ English Lounge、英語学習や課題のアドバイスが受けられ、マンツーマンで授業の予習・復習が出来る Academic Advising など英語学修環境が整備されている。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ○教育課程 初年次生を対象に、基礎教育分野の TIU コア科目として、自身のキャリア形成を考え、充実したキャリア形成に向かう第一歩を踏み出すための 4 年間の行動計画を作成する「大学生活デザイン演習」を学部横断の必修科目として開設している。 ○個別指導・就職支援デスク キャリアセンターでは、学生一人ひとりの立場に立って最適な進路が選択できるように、きめ細かくアドバイスする「個別指導」を行っている。本学の特色のひとつである体育会強化クラブの学生に対しては、その特性を活かした希望の企業に就職できるよう「アスリート就職支援デスク」を設置し、専門のコンサルタントがサポートしている。また、イングリッシュ・トラックの学生に向けては外国籍含むバイリンガルスタッフを配置し、英語による各種支援行事の開催や、日英両言語での相談体制を整えている。 ○就職ガイダンス 就職活動が本格化する学部 3 年生に対して、学生が計画的に就職活動を行えるよう、「就職ガイダンス」「仕事研究＆インターンシップガイダンス」「エントリーシート・履歴書セミナー」「面接特訓セミナー」などのガイダンスや各種セミナーを開催している。また、「学内企業説明会」を複数回開催し、内定獲得に繋がる機会としている。外国人留学生には「外国人留学生就職ガイダンス」、英語での「キャリアガイダ

ンス」や各種セミナー、公務員を目指す学生には「公務員ガイダンス」を行うなど、学生の特性や進路希望に合わせたガイダンスやセミナーを開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮として、川越第１ ・第２キャンパス及び池袋キャンパスに看護職員が常駐する保健室を設置し、健康診断の実施や要再検査学生への指導、疾病者の応急処置を行うとともに学外の病院とも連携して緊急時も適切な処置が取れる体制を整備し、学生の健康安全を支えている。また、本学では 2017 年度に学内全面禁煙を実施、2018 年度には東京国際大学禁煙宣言を策定し、禁煙教育、啓発活動の推進、学外での本学関係者の喫煙抑止を呼び掛けている。 専門のカウンセラーが対人関係や、こころの不調などの相談に応じる学生相談室も川越第１・池袋キャンパスに設置し、保健室、学生相談室が相互に連携して心身の健康保持・増進を図っている。授業期間中はポータルサイト上で利用についての掲示をしており、対面の他、オンライン（Zoom）での相談も行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310104198
学校名（○○大学 等）	東京国際大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人東京国際大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		528人	507人	565人
内訳	第Ⅰ区分	321人	293人	
	第Ⅱ区分	133人	146人	
	第Ⅲ区分	74人	68人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				566人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	―	人	人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	14人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	34人	人	人
計	50人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	11人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	60人	人	人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	110人	人	人
計	126人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。